論　文

スノーボード指導者のリーダーシップ類型による参加者の認知及び行為に及ぼす影響

The Effects of the Cognitive and Behavioral Commitment According to Snowboarders Leader's Leadership Type

陸　調永（韓国体育大学校）[1]
南　勝久（韓国体育大学校）[2]
刈谷　三郎（高知大学）[3]
鄭　逸鎬（世宗大学校）[4]
李　洙妊（高麗大学校）[5]
呉　一英（南ソウル大学校）[6]
池　秉潤（啓明大学校）[7]

Yuk Jo-Young[1], Nam Seung-GuKorea[2], Saburo Kariya[3], Chung Il-Ho[4]
Lee Soo-Jung[5], Oh Il-Young[6], Ji Byung-Yoon[7]

1 *Korea National Sport University*
2 *Korea National Sport University*
3 *Kochi University*
4 *Sejong University*
5 *Korea University*
6 *South Seoul University*
7 *Keimyung University*

ABSTRACT

The purpose of this study was to analyze the effects of a snowboarder leader's commitment level according to their leadership types. The data was collected from 285 university students who particioated in at winter leisure sports. The mean, frequency, t-test, ANOVA and multi-regression analysis were used to analyze the data. The results showed that male students charisma and behavioral commitment were higher than female students. A difference was found in charisma and individual care leadership according to years. 4th years students showed lower levels than 1st and 2nd-years students at cognitive stimulation and conditional compensation leadership, and 2nd and 3rd years students were higher than 1st and 4th years students at behavioral commitment. Charisma and exceptional management leadership type effected a university student's cognitive commitment, and charisma, exceptional management, and individual care leadership effected a university student's behavioral commitment.

Ⅰ　緒言

韓国では、近年週５日制勤務が拡散義務化され、労動中心の社会構造から脱して余暇活動に対する関心が高くなり、スポーツ人口が拡がっている。国民のスポーツ活動参加実態を調査した研究報告によると、週２－３回以上の生活体育活動参加率は、20代が24.4％である一方、10代32.6％、30代以後47.5％であった。20代の生活体育活動参加率は他の年齢層に比べて非常に低かったにもかかわらず90％以上が生活体育活動に直接参加することが自分の人生に肯定的な影響を及ぼすと考えている。（文

化観光省、2003）これは、生活体育に対する認識が非常に肯定的に変化してきており、生の質的向上のために必要であると認識している。

それにもかかわらず20代の生活体育活動の参加率が低い理由は、青少年期の受験教育と過多な授業から、常に緊張した生活が繰り返され、無気力な活動、静的な生活、フラストレーション、人間関係の疎遠などストレスがたまるようになっている（Park, 1999)。一方、青年期の余暇スポーツ活動は、以前の無意味で乾燥した生における生活の活力を捜すことができる。また余暇時間におけるさまざまな活動は、余暇に対する意識を肯定的で積極的な思考に切り替えて自分の能力を開発し、未来に対するビジョンを具体化できるきっかけを用意することができるだろう（Kim, Yi & Shim, 1997)。

また、大学生という時期は、アイデンティティ確立のための準備と親しい関係を結ぶことができる人々を探そうとする欲求を持った時期であり、このような欲求は、自ら選択した余暇活動を通じて学ぶことができ、余暇の社会性を強調している。大学生の余暇活動は、消極的非スポーティー余暇形態から脱して自己開発と生の質的水準を進める能動的でスポーティーな余暇形態に転換されなければならない（Kim, 1993)。

近年、大学生は、受験教育から開放され、与えられた余暇時間を多様で新しい形態で送ろうとする新しい試みが行なわれている（서상옥 , 2004)。特に冬季レジャースポーツは急速に増加している。1989年以前は、５ヶ所に過ぎなかったスキー場数が1990年に入って８ヶ所増えて、13ヶ所になっている。大韓スキー協会によれば2002/03シーズンには、455万名の利用客があり、毎年増加傾向にある。(Kim, 2004)。スキー場の利用客数がこのように活気をたたえる理由は、所得水準の向上、余暇時間の拡大及び自動車普及の拡大などの基本的な要因以外にもスキー、スノーボードに対する否定的な認識、すなわち高級贅沢性のスポーツという認識が薄まったためと解釈される。

一般の人たちの冬季レジャースポーツに対する関心の高さと参加増加率は、漸次的に増加するはずで、冬季レジャースポーツの大衆化と底辺拡大のために指導者の役目はより重要になってくるだろう。しかし指導者の養成において国家的次元の資格条件を取り揃えたスキーリーダー協会及びスキー学校で輩出する指導者の数は著しく少ない。

冬季レジャースポーツの究極的な目標は、安全で楽しい学習経験を与える事である。指導者において重要なことは、安全、楽しみ、そして学問のための専門的な理論と実践を兼備した専門的な知識を取り揃えていなければならない。それにもかかわらず、これらを指導するリーダーの量的増加傾向とは裏腹に、知的な要因である冬季レジャースポーツリーダーの専門性について重要な要素を兼備することができていないとして効果的な結果をだせていないのが実情である。

スポーツと運動状況において指導者行動と学生の内的動機の間の関連性を立証する研究が多くなってきているが、指導の効率性を単純に指導満足のみを調べるにとどまっている（Um & Kim, 2003)。

Bass（1985）によれば、既存の特性理論、行為理論、状況理論は、初心者の成果に対しては指導者が物質的にも心理的に補償する取引関係の特徴がある取引的リーダーシップに対して、これとは対照的に変化する社会環境に対処して組職の目標を果たして行くための組職構成員たちの高次元的で質的な変化を誘導することができる変革的リーダーシップが指導者に必要であると考えている。変革的リーダーは、カリスマ、知的刺激、個別的思いやりによって構成員たちに新しいビジョンを提示し、高い理想と価値観を植えてくれることによって構成員たちを動機づけして彼らの態度、信念、価値、欲求の変化を起こすことができる。

また、取引的リーダーは、学習者たちの動機づけのために学習者たちに補償を得ることができる指導を明確にし、それに対するインセンティブと補償を提供する条件的補償類型と運動技術を効果的に履行するようにするためにリーダーが学習者の行動や動作をモニタリングして誤った行動を矯正してくれる例外的管理類型で区分することができる。

スポーツ活動関連変革的リーダーシップや取引的リーダーシップ類型の国内外研究ではスポーツリーダーに対する選手の認識に関する研究（Kim & Shim, 2001)、リーダーシップ類型が指導効率性に及ぼす影響に関する研究（Kim, 2000)、ハンドボール選手が知覚するリーダーシップ類型と逸脱に関する研究（Yoo, 2004)、変革的リーダーシップ類型が学生たちの実行力に及ぼす効果に対する研究（Koh, Terborg & Steers, 1995）などがある。

一方、Csikszentmihalyi（1975）は、没入経験と言うのは日常生活の中で現われる一種の状態であり、このような楽しさと没入の状態を没入経験であると言った。このような没入経験の一例で、スノーボードに乗るライダーの場合、自分の意志と実力でハーフパイプやジャンプ台など難しい技術に挑戦して成功するという目標で自分の行動に打ち込むようになって目標を果たした時は成就感と喜悦を感じるようになる。また、 김미향 (2003) は、スキーマニアの没入経験に関する研究でスキー場利用回数が週４回以上のスーパーマニアであるほど対価を望まないで活動自体に満足を大きく感じる自己目的的経

験をたくさんして、活動に対する明確な目標意識を持つようになると述べている。余暇活動としての生活体育に参加する人々がどのような補償もなしにスポーツに没入している時、彼らは確かに幸せと係わった強烈な肯定的情緒の体験をスポーツ自体で感じており、スポーツに没入している（Jung, 1997）。

このような脈絡により、冬季レジャースポーツリーダーの指導類型によって参加者の没入程度を実証的に分析することにより、冬季スポーツ参加者達を指導する為により効率的な指導類型を提示することが本研究の目的である。

Ⅱ　研究方法

1．対象

本研究の対象者は、冬季レジャースポーツリーダーの指導類型に参加者の没入程度を調べるため、冬季レジャースポーツに参加する大学生、300人を対象にした。対象者の中で不真面目にアンケートに回答した15人を除いた285人を有効なデータとして処理した。

表1. 調査対象者の一般的特性

変因	区分	事例数	百分率
性別	男	149	52.3
	女	136	47.7
学年	1 年生	69	24.2
	2 年生	76	26.7
	3 年生	60	21.1
	4 年生	80	28.1

2．調査

1）アンケート紙

アンケート紙の構成は、背景変因（性別、学年）2 項目、リーダーシップ類型38項目、没入程度10項目で構成されている（表2）。

表2. アンケート紙の構成内容

調査項目	内容	質問項目
背景変因	性別、学年	2
リーダーシップ類型	カリスマ	9
	個別的思いやり	7
	知的刺激	8
	条件的補償	3
	例外的管理	3
没入程度	認知没入	6
	行為没入	3
	総計	41

リーダーシップ類型に関するアンケート紙は、Bass（1985）が多要因リーダーシップ質問紙（Multi factor Leadership Questionnaire: MLQ）を開発し、Bycio, Hackett & Allen（1995）が負荷量順に抽出した40個の質問項目を冬季レジャースポーツに当てはまるように修正した。カリスマ的リーダーシップを測定する質問項目は 9 個であり、個別的思いやりを測定する質問項目は 7 個、知的刺激を測定する質問項目は 8 個、条件的補償 3 個、例外的管理を測定する質問項目は 3 個で総30項目である。各質問に対する答えは“全然そうではない” 1 点、“そうではない” 2 点、“普通” 3 点、“そうである” 4 点、“非常にそうである” 5 点で 5 点Likert尺度を使用した。

また、没入程度に関するアンケート紙は、Carppenter, Keeler, Scanlan, Schmidt & Simons（1993）が開発したESCM（Expansion of Sport Commitment Model）を基礎にしてJung（1997）が国内実情に相応しいように開発した没入程度アンケート紙を使用した。没入程度は、認知没入 6 項目と行為没入 3 項目で総 9 項目である。各質問に対する答えは“全然そうではない” 1 点、“そうではない” 2 点、“普通” 3 点、“そうだ” 4 点、“非常にそうだ” 5 点で 5 点Likert尺度を使用した。

2）アンケート紙の妥当度

本研究で使用した大学生の冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型と没入程度に関するアンケート紙は、探索的要因分析（exploratory factor analysis）を通じて妥当度を検証した。

冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型と没入程度をもっと細分化するためにSPSS Packageを利用して探索的要因分析を実施した。要因抽出モデルは、共通要因分析方法中のひとつの最大尤度法を利用し、回転方法は直角回転方法の中にバリマックス回転を使った。リーダーシップ類型の確認分析を実施して固有値 1 以上の要因を抽出した 5 種共通要因を抽出した。

要因分析結果、総40質問項目の中で要因積載値が低く現われた10項目を除いた総30項目で要因を抽出した。30項目を要因分析した結果<表 3 >のように要因 1 は 9 項目で構成され、‘カリスマ’と名付けた。要因 2 は 7 項目で構成され、‘個別的思いやり’と名付けた。要因 3 は 8 項目で構成され、‘知的刺激’と名付けた。要因 4 は 3 項目で構成され、‘条件的補償’と名付けた。要因 5 は 3 項目で構成され、‘例外的管理’と名付けた。リーダーシップ類型下位要因のCronbach's Alpha係数は、カリスマ.880、個別的思いやり.892、知的刺激.871、条件的補償.703、例外的管理.630で現われ、内的一貫性が高いことが分かる。

また、没入程度は 9 項目を要因分析した結果<表 4 >のように要因 1 は 6 項目で構成され、‘認知没入’と名付けた。要因 2 は 3 項目で構成され、‘行為没入’と名付けた。没入程度下位要因のCronbach's Alpha係数は、認知没入.909、行為没入.716で現われ、内的一貫性が比

較的高いことが分かる。

表3. リーダーシップ類型アンケート紙に対する要因分析結果

要因	項目	リーダーシップ類型				
		要因1	要因2	要因3	要因4	要因5
カリスマ	1	**0.643**	0.149	−0.077	0.496	0.047
	8	**0.696**	0.057	0.455	0.104	−0.006
	10	**0.711**	0.307	0.034	0.206	0.194
	11	**0.653**	0.282	0.233	−0.007	0.07
	14	**0.504**	0.461	0.222	0.134	0.077
	16	**0.607**	−0.006	0.382	0.276	0.102
	17	**0.571**	0.13	0.293	0.289	−0.115
	18	**0.732**	0.155	0.081	0.204	0.113
	21	**0.522**	−0.18	0.318	−0.16	0.225
個別的思いやり	2	0.447	**0.67**	−0.124	0.321	−0.028
	3	0.302	**0.566**	0.213	0.312	0.385
	4	0.175	**0.85**	0.033	0.057	0.203
	6	0.06	**0.856**	0.133	−0.15	0.092
	7	0.31	**0.642**	0.06	0.048	−0.203
	9	0.038	**0.833**	0.237	0.011	0.141
	25	0.168	**0.564**	0.335	0.345	0.018
	27	−0.126	**0.728**	0.159	0.102	0.086
知的刺激	5	0.269	0.09	**0.565**	0.353	0.036
	12	0.347	0.169	**0.622**	0.27	0.138
	13	0.088	0.158	**0.511**	0.337	−0.362
	15	0.138	0.367	**0.646**	0.243	−0.065
	19	0.208	0.049	**0.697**	0.321	0.04
	20	0.019	−0.06	**0.77**	−0.224	0.06
	30	0.315	0.212	**0.715**	−0.063	−0.079
条件的補償	34	0.426	0.105	0.242	**0.559**	−0.074
	35	0.343	0.174	−0.114	**0.581**	0.243
	40	0.201	0.06	0.168	**0.764**	0.018
例外的管理	32	0.461	−0.005	−0.058	0.002	**0.631**
	38	−0.086	−0.348	0.202	0.373	**0.615**
	39	0.069	0.152	0.198	0.065	**0.747**
Eigenvalue		6.133	5.764	5.378	3.921	2.723
% of Variance		16.141	15.168	14.154	10.319	7.167
Cumulative %		16.141	31.309	45.463	55.781	62.948

Kaiser-Meyer-Olkinの標本適合性測定 = .713
Bartlettの球形検定 = 10909.650,　df = 703,　Sig = .000

表 4. 没入程度アンケート紙に対する要因分析結果

要因	項目	リーダーシップ類型	
		要因1	要因2
認知没入	1	**0.803**	0.09
	2	**0.819**	0.164
	3	**0.832**	0.359
	4	**0.874**	0.279
	5	**0.724**	0.393
	9	**0.618**	0.474
行為没入	6	0.311	**0.753**
	7	0.239	**0.796**
	8	0.114	**0.73**
Eigenvalue		3.843	2.356
% of Variance		42.701	26.173
Cumulative %		42.701	68.874

Kaiser-Meyer-Olkinの標本適合性測定 = .837
Bartlettの球形検定 = 1720.740,　df = 36
Sig = .000

3．統計処理

分析可能な資料をコーディング指針によってコンピューターに個別入力した後、統計プログラムであるSPSS Windows 13.0 versionプログラムを活用して電算処理した。資料分析のためにこの研究で使った統計技法は要因分析、信頼度分析、t検証及び変量分析、多重回帰分析などだ。事後検証はBonferroni testを利用して５％の有意水準で実施した。

Ⅲ　結果及び考察

1．性別によるリーダーシップ類型及び没入程度の差

大学生の性別による冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型及び没入程度の差を調べるために実施したt-test分析結果は<表５>に提示した。

性別によるリーダーシップ類型の場合、カリスマは男学生が3.19±.050であった一方、女学生は2.83±.062で男学生が女学生より有意に高いことで現われた（p<.01)。しかし個別的思いやり、知的刺激、条件的補償、例外的管理のリーダーシップでは男学生と女学生の間に有意な差はみられなかった（p>.05)。また冬季レジャースポーツの没入程度では行為没入で男学生が3.80±.064であった一方、女学生は3.15±.068で男学生が女学生より有意に高かった（p<.01)。しかし、認知没入では男学生と女学生の間に有意な差はみられなかった。

これは男学生が女学生より活動に対する自発的選択、活動参加を通じて楽しみ追求、活動を文化的余暇で認識が高いため、冬季レジャースポーツに対する集中力、没入体験などの差として現れたと考えられる。

2．学年別によるリーダーシップ類型及び没入程度の差

大学生の学年別による冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型及び没入程度の差を調べるために実施した変量分析結果は<表６>に提示した。学年によるリーダーシップ類型の下位変因であるカリスマ、個別的思いやり、知的刺激、条件的補償は学年間に有意な差を見せた一方、例外的管理は統計的に有意な差がみられなかった。

学年間の差を調べるために事後検証のひとつbonferroni方法を利用して分析した結果、カリスマと個別的思いやりは、４年生が１年生、２年生、３年生より有意に低かった（p<.05)。しかし１年生と２年生そして３年生の間には統計的に有意な差はみられなかった（p>.05)。知的刺激は、１年生が２年生と４年生に比べて有意に高かった（p<.05)。他の学年間には有意な差はみられなかった。条件的補償は、１年生と３年生が２年生と４年生に比べて有意に高かった（p<.05)。一方、他の学年間には有意な差がなかった（p>.05)。また、没入程度の場合は、行為没入で２年生と３年生が１年生と４年生に比べて有意に高かった（p<.05)。残り学年の間では有意な差がなかった。

大学生の冬季レジャースポーツ講習のリーダーリーダーシップは、カリスマと個別的思いやりリーダーシップが

表5. 性別によるリーダーシップ類型及び没入位の差分析結果

Factor		Groups	M±SE	Mean. Diff.	S.E. Diff.	df	t-value	Sig.
リーダーシップ類型	カリスマ	男 (n=149)	3.19±.050	0.355	0.079	264.3	4.47	.000**
		女 (n=136)	2.83±.062					
	個別的思いやり	男 (n=149)	3.03±.055	0.162	0.345	252.9	1.748	0.082
		女 (n=136)	2.86±.075					
	知的刺激	男 (n=149)	3.28±.059	0.133	0.302	283	1.546	0.123
		女 (n=136)	3.15±.063					
	条件的補償	男 (n=149)	3.21±.055	0.039	0.206	283	0.455	0.649
		女 (n=136)	3.17±.065					
	例外的管理	男 (n=149)	2.79±.069	-0.144	0.046	283	-1.491	0.137
		女 (n=136)	2.94±.068					
没入程度	認知没入	男 (n=149)	3.40±.064	0.039	0.247	257.7	0.3642	0.713
		女 (n=136)	3.37±.084					
	行為没入	男 (n=149)	3.80±.064	0.644	0.094	283	6.894	.000**
		女 (n=136)	3.15±.068					

*; p<.05, **; p<.01

表 6. 学年によるリーダーシップ類型及び没入位の差分析結果

要因		学年	N	M±SE		df	SS	MS	F	Sig.	Post-hoc
リーダーシップ類型	カリスマ	1	69	3.33±.087	集団間	3	21.95	7.32	18.41	0	1,2,3>4*
		2	76	3.14±.079	集団内	281	111.67	0.4			
		3	60	3.05±.071	合計	284	133.61				
		4	80	2.60±.060							
	個別的思いやり	1	69	3.18±.072	集団間	3	18.08	6.03	11.05	0	1,2,3>4*
		2	76	2.99±.087	集団内	281	153.25	0.55			
		3	60	3.15±.117	合計	284	171.33				
		4	80	2.56±.077							
	知的刺激	1	69	3.49±.088	集団間	3	8.58	2.86	5.7	0.001	1>2,4*
		2	76	3.18±.089	集団内	281	140.96	0.5			
		3	60	3.24±.097	合計	284	149.54				
		4	80	3.02±.064							
	条件的補償	1	69	3.57±.083	集団間	3	22.34	7.45	16.96	0	1,3>2,4*
		2	76	3.02±.077	集団内	281	123.4	0.44			
		3	60	3.38±.075	合計	284	145.74				
		4	80	2.88±.077							
	例外的管理	1	69	2.99±.127	集団間	3	5	1.67	2.53	0.057	
		2	76	2.81±.088	集団内	281	185.14	0.66			
		3	60	3.01±.099	合計	284	190.15				
		4	80	2.69±.069							
没入程度	認知没入	1	69	3.24±.078	集団間	3	4.25	1.42	1.84	0.14	
		2	76	3.51±.092	集団内	281	216.42	0.77			
		3	60	3.27±.117	合計	284	220.67				
		4	80	3.48±.121							
	行為没入	1	69	3.35±.064	集団間	3	23.16	7.72	11.91	0	2,3>1,4*
		2	76	3.78±.085	集団内	281	182.07	0.65			
		3	60	3.78±.095	合計	284	205.23				
		4	80	3.13±.119							

*; p<.05, **; p<.01

低学年であればあるほど効果が大きいことが分かり、低学年や高学年よりは2、3年生が行為没入が高いことが分かったが、これは卒業後就業に対する心理的圧迫感から脱してやりがいのある充実した大学生活を楽しもうとする認識が高いからだと考えられる。

3．リーダーシップ類型と没入程度の関係

リーダーシップ類型が冬季レジャースポーツの没入程度に及ぼす影響を調べるために標準重多回帰分析を実施した結果は<表7><表8>である。

リーダーシップ類型が冬季レジャースポーツの認知没入に及ぼす影響を<表7>に提示した。認知没入に対する全体変量の中で約14.8%を説明している。この中でリーダーシップ類型が認知没入に寄与する程度をよく見ると、カリスマ（β＝.415, p<.05）は正的な影響を及ぼす一方、例外的管理（β＝-.118, p<.01）は否的な影響を及ぼしている。

また、リーダーシップ類型が冬季レジャースポーツの行為没入に及ぼす影響を<表8>に提示した。行為没入に対する全体変量の中で約25.9%を説明している。この中でリーダーシップ類型が行為没入に寄与する程度をよく見ると、カリスマ（β＝.633, p<.01）は正的な影響を及ぼす一方、例外的管理（β＝-.168, p<.01）と個別的思いやり（β＝-.195）は否的な影響を及ぼしている。

これはUm & Kim（2003）の研究結果にもみられたように具体的な指導と激励をよくする講師の指導を受け

た講習生たちは、講習がより面白く感じると述べているこの結果と部分的に一致している。特に処罰や統制主義指導は、講習生たちの講習に対する興味と努力を落とすだけでなく緊張感を助長する効果があり、特別な注意を払う必要があると考えられる。

表7. リーダーシップ類型下位変因が認知没入に及ぼす影響に対する標準重多回帰分析結果

	B	SE B	Beta	t
カリスマ	0.533	0.075	0.415	7.150**
例外的管理	−0.127	0.063	−0.118	−2.033*
	Multiple R		0.392	
	R Square		0.148	

* p< .05, ** p< .01

表8. リーダーシップ類型下位変因が行為没入に及ぼす影響に対する標準重多回帰分析結果

	B	SE B	Beta	t
カリスマ	0.785	0.081	0.633	9.660**
例外的管理	−0.175	0.057	−0.168	−3.079**
個別的思いやり	−0.213	0.071	−0.195	−2.996**
Multiple R				0.516
R Square				0.259

* p< .05, ** p< .01

Ⅳ　結論

本研究は、冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型による参加者の没入程度に及ぶ影響を明らかにすることに目的がある。本研究のために冬季レジャースポーツに参加する大学生を対象と調査し、総300人を対象にし、有効データは、不真面目に回答したものなどを除いた285人であった。冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型と没入程度の関係を調べるために独立的標本t-test、変量分析（One way ANOVA)、標準多重回帰分析を通じて次のような結論を得た。

1．性別による冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型は、男学生が女学生よりカリスマリーダーシップで高かった。個別的、知的刺激、条件的補償、例外的管理リーダーシップでは差がなかった。また、没入の程度は男学生が女学生に比べて行為没入で高かった。認知没入では男女学生の間に差がなかった。

2．学年別による冬季レジャースポーツリーダーのリーダーシップ類型は、低学年であるほどカリスマと個別的思いやりリーダーシップで高く、知的刺激と条件的補償リーダーシップは４年生が１、２年生に比べて低かったが、３年生とは差がなかった。また、没入の程度では行為没入の場合２、３年生が１、４年生に比べて高かった。しかし認知没入では差がなかった。

3．カリスマと例外的管理のリーダー類型が認知没入に影響を及ぼすことが明らかになり、行為没入はカリスマ、例外的管理、個別的思いやりのリーダーシップ類型によって影響を受けていることも明らかになった。

以上のことから、冬季レジャースポーツのリーダーリーダーシップの類型では、カリスマリーダーシップが参加者の認知や行為没入に影響を与えるため、大学生たちを対象にする冬季レジャースポーツのリーダーは、カリスマリーダーが効率的な側面で一番良いと考えられる。

参考文献

문화관광부（2003）. 국민생활체육활동 참여실태 조사. 서울: 문화관광부.

서상옥 (2004) . 21 세기 신 스포츠로서 익스트림 게임의 국내외 현황 및 전망. 2004 서울 익스트 림 게임즈 월드컵 조직위원회.

Bass, B. M.（1985）. Leadership & performance beypond expectations. New York: Free press.

Bycio, P., Hackett, J. S., Allen, R. D.（1995）. Further assessment of Bass's (1985) conceptualization of transactional and transformational leadership. Journal of Applied Psychology, 80, 468-478.

Carpenter, P. J., Keeler, B., Scanlan, T. K., Schmidt, G. W., Simons, J. P. (1993). An introduction to the sport commitment model. Journal of Sport & Exercise Psychology, 15, 1-15.

Jung, Yong-Gak（1997）. The influence of sport participation motivation, arousal seeking and affects on the behavior of sport commitment. Graduate school Pusan National University.

Kim, Dong-Jin (1993). A study on the relationship between leisure and quality of life of university students. Journal of the Research Institute of Physical Education, 14(1). 55.

Kim, Jin-Ho, Yi, Sung-Sik, Shim, Sung-Sub (1997). Phenomenon and prospect of sport for all programs. Journal of Sport and Leisure Studies, 7(1). 69-83.

Kim, Jin-Pyo (2000). The effects of coaches transformational, transactional leadership on coaching effectiveness. Graduate school Korean National Sport University.

Kim, Jong-Sik, Shim, Jae-Young (2001). A study on perception degree of athletics for transformational and transactional leadership of sport leaders. Journal of Sport and Leisure Studies, 16(1). 169-182.

Kim, Min-Hyun (2004). The comparative analysis of self-efficacy of the participants in winter sports by levels. Journal of Sport and Leisure Studies, 22. 789-800.

Koh, W. L., Terborg, J. R., Steers, R.M. (1995). The effects of transformational and student performance in singapore. Journal of Orgarizational Behavior, 16, 319-333.

Park, Jung-Ran (1999). A study on knowledge, attitude and behavior about general health among university students in seoul. Department of Heath Education the graduate school of Ewha Womans university.

Um, Sung-Ho, Kim Byoung-Jun (2003). Teaching behavior as a predictor of students intrinsic motivation in physical education. Korean Journal of Sport Psychology, 14(4). 17-36.

Yoo, Jae-Choog (2004). Relationships between handball player perceived leadership type and deviant behavior. Journal of Korean Sociology of Sport, 7(3). 209-219.